

## 平成 29 年度男女共同参画センターはあもにい 第 2 回運営審議会 議事録

1. 日時 平成 30 年 2 月 22 日（木）午前 10:00～

2. 場所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室

3. 出席者

運営審議会委員（9 名）

井手志保委員、伊藤一敏委員、石井美代子委員、坂口京子委員、中山敏子委員、  
那須円委員、広渡純子委員、宮村飛伸委員、八幡彩子委員（五十音順）

オブザーバー 熊本市 市民局 市民生活部 男女共同参画課 主査 野口 大輔

事務局 代表企業 A 尾池千佳子（九州綜合サービス株式会社代表取締役）

上村浩二（九州綜合サービス株式会社専務取締役）

構成企業 B 小山雄治（熊本産業文化振興株式会社常務取締役）

構成企業 C 藤井宥貴子（有限会社ミューズプランニング代表取締役  
兼はあもにい館長）

坂本ミオ（有限会社ミューズプランニング取締役副社長）

副館長：伊井純子

総務管理課：梅田勝也、反後文代、杉卓倫、富岡若菜、田中美帆、緒方一茂

維持管理課：安藤陽介

4. 会次第および議事内容

（1）開会

（2）開会あいさつ（館長：藤井宥貴子）

（3）代表あいさつ（はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子）

（4）審議会委員および出席者紹介

（5）審議

議題 1 はあもにい管理運営状況報告

利用状況報告

議題 2 平成 29 年度実施事業について（映像で紹介）

議題 3 平成 30 年度事業方針、事業計画について

議題 4 その他

5. 特記事項

熊本市男女共同参画センターはあもにい館長藤井が 3 月末をもって館長職を退き、4 月から、くまもと県民交流館パレア館長に就任。有限会社ミューズプランニング取締役副社長坂本ミオが 30 年度から熊本市男女共同参画センターはあもにい館長に就任予定。

## 6. 議事録

### 議題 1・議題 2 についての質疑応答

---

#### 議題 1

八幡：地震で大変な思いをされたことがうかがえた。指定管理制度導入の平成 27 年度と今年度を比べると立派な数値があがってきているかと感じた。

#### 議題 2 平成 29 年度実施事業について

那須：多彩な活動がよく分かった。さまざまな企画事業の中で、3 月の企画に予定されているテレワークについて。所属している市議会では、赤ちゃんを連れて入ったというニュースが全国的に放送されたが、いかに子育てをしながら仕事をするか問題となっており、それを解決する手段としてテレワークがあるかと思う。その分野が熊本でどの程度広がっているか分からないが、これまで行ってきたテレワークの講座で、企業なり、事業所なりでどのような影響があったのか、熊本市内の取り組み実態なども含めて教えていただきたい。今回は企業向けということだが、どういう風に周知されているのか教えてほしい。

反後：以前、市の主催事業として、メインホールでテレワークの第一人者田澤由利さんの講演があり、その後、はあもにいのエントランスで具体的にデモンストレーション講座を行った。市内の現状としては、表立って「テレワークをしています」と手を挙げているところは少ない。ただ、事業所によっては、システムエンジニアを抱えているところなどでは、WEB 会議を取り入れていたり、リモートワークをしていたり、すでに取り組みは始まってはいる。今年度、9 月くらいに熊本県でテレワークの講座があった。80 人の定員に対して、満員の状況だった。約半分は行政関係、あと半分は一般の事業所ということだった。その後どれくらい取り入れられているかは県でも把握されていないとのことだった。

周知については、平成 24 年度からテレワークに関わっているが、なかなか一般に浸透しないと感じている。講座を実施すると、育児中の方などテレワークをやりたいという需要はあるが、企業側が「こんな制度があるんですよ」「働き方が選べるんですよ」という形で示しているところは少ない。企業がきちんと制度として導入しないと広がらないと感じたため、今回は企業向けの講座をすることにした。熊本商工会議所、中小企業同友会、ひのくに商工会などを通じて周知をしている。その他、行政と産学連携の会合等に声がけして案内している。先進的な企業、ワーク・ライフ・バランスなどの働き方改革に関心のある積極的な企業へ声がけをしていく予定。

八幡：天草在住の人が熊本市の企業でテレワークをしているという事例は聞いたことがある。今後広い範囲での普及が望まれる状況。

坂口：テレワークのことで思いついたが、普段、子どもたちに関わっていて、時代の流れを感じている。今の子どもたちは IT を使いこなせるので、10 年後にはテレワークが当たり前となると思うし、職業もワーク・ライフ・バランスの段階ではなく、世界の人と地域を超え

てつながるそういう時代になるのではと思う。小学生の子どもたちを見ていると、親子の触れ合い、体力、コミュニケーションの部分で未熟な点、問題点はあると思うが、新しい世界を創る子どもたちなんだと思う。テレワーク、IT、AI についても私たちとは、はるかに違った感覚で世の中を動かしていくのだろうと実感している。親、経営者は働き方改革で悩んでいる世代。時代を超えて3世代の働き方の会議やディスカッションが活発になると、面白いものができるのでは。時代が変わっているのだと地震を経験したことで熊本は強く感じたはず。そういったものを反映した企画ができればと思う。また、はあもにいに来たことがない人が100%だった講座があったと報告があったが、人の募集の仕方や告知の仕方はどういうものだったのか。情報発信を工夫されているのか。

**杉：**その講座は、毎年募集している市民グループ企画の一つとして実施した。通常、1回きりの婚活は出逢いの場を提供し、カップリングするものだが、今回ライフオーダーさんで提案された企画内容は、婚活という形を取りはするが、一回きりではなく、3回の講座を通してスキルアップさせるものだった。たとえば、相手に自分の気持ちや自分をアピールするコミュニケーションスキルをある程度身につけるワークショップでは、自分の生き方や長所を紙に書いて発表させるなど。お互いに話をする中で本人が気づかないアピールポイントに気づかせたり、あるいはダンスをしたり料理をしたり自分が前に進むための講座になったと思う。最初はおとなしい感じの方が、講座が終わるころに明るい表情で話ができるようになったと報告があった。交際に至ったのは15組中1組だったが、他の参加者もお互い連絡先を交換していたので、今後カップルが増えていくのでは。広報は、主催団体のSNSや活動の中でのつながりで紹介してもらったり、内部のネットワークを通じて声がけをしたりしたと聞いている。

**井手：**3月3日のミモザフェスティバルに行きたいと思っている。会場はびぶれす広場がメインで、はあもにいは閉まっているのか。

**反後：**はあもにいは当日開館していて、館内では国際女性デーやホワイトリボンランの情報展示をする予定。情報資料室では関連した図書情報を紹介する予定。貸室は通常貸し出し。

**宮村：**高校などに出張で男女共同参画に関する講演会を行うというのはよい活動と感じた。気になったのは、各イベントともに参加者はどういう人が参加しているのかということ。告知の方法、周知の方法なども気になった。市民グループの参加にあたって独自の周知方法があったとのことで、今後はあもにいの活動を広げる方法の1つになると感じた。ミモザフェスティバルは、女性の集客をメインに考えているのか。

**反後：**これは国際女性デーを記念して開催しているが、男性にももちろん関心を持っていたき、女性の声に耳を傾けていただきたいという主旨で行っている。ぜひご参加ください。

**宮村：**興味のある人がいるので行きたいと思うが、正直、女性の特典しかないので、妻が行きたいと言ったら付き合わされる感がある。男性も得があることがあればうれしいと思う。女性が活躍するには、男性の支援にも理解がないと難しい。女性が頑張っても、別々にやりましょう、ではどうしようもないと思うので、頑張っている姿を見せるため男性への

アピールもよろしくお願いします。

**石井：**宮村さんがお話されたように、はあもにいそのものもだが、企画の参加者の男女の比率はどうなのかなと思った。テレワークもご案内いただいているが、頭を悩ませているのは、働き方改革。テレワークをした場合、その後どうなるのかなと感じるところはある。

また、商工会議所に女性会があるのは、おかしいのではと男性から言われる。男女共同参画の目標というのは、そういう社会なんだろうと確かに思う。ただ、女性会を通して、男性に問題を知っていただきたいという部分がある。女性ばかりで何を語り合っているかという感じではなく、みんなで一緒にやっていく社会が究極の目標なのではないか。

**中山：**大学1年生を対象に、はあもにいが講座を行った際、9割の学生が「はあもにいのことを知らなかった」という報告があり、ショックだった。ここが建ったのが平成2年で、毎年、相当な事業をしてきているが、学生に関心を持ってもらうのは無理なのかなと感じた。他大学でもそういう意見を聞いたことがあるか。

**藤井：**アンケートを取っていないため他の大学でどうか、はっきりは分からないが、ルーテルや熊本大学は近いので、（はあもにいの）名前は知っているが、行ったことはないという声が多い。学園大学で講義を行ったとき、知っているか、ではなく、来たことがあるかと尋ねたら、多くの学生さんはあまり手を挙げてくれなかった。周知度に関しては熊本市のアンケートの結果も芳しくない。私たちが出前講座や、ミモザフェスティバルを外で行うのは、中央区黒髪に男女共同参画センターはあもにいがあるところを知っていただくため。まだまだ周知が足りていない。これからも意識して発信していきたい。若い人にも、もっと足を運んでいただきたいと、インターンシップにも積極的に取り組んでいるが、もっと注力していきたい。

**中山：**これだけががんばっているのにもったいない気がしたので、お尋ねした。（防災出前講座として）19回出前講座されていますよね。18番目に中央検察庁に出前講座しているがどうでしたか。

**田中：**総務課の職員対象で行ったが、検察庁には男女共同参画推進委員会があるそうで、男女共同参画については取り組んでいる状況はあるということだった。ただ、防災について男女共同参画に関わりがあるとは今まで学んでこなかったということで、出前講座を行ったところ、知らないことも多くあるというアンケート結果だった。自分達も足元を見なければいけない、防災を男女共同参画の視点で考えなければいけないということを初めて知った、という感想が多く寄せられた。

**広渡：**認知度のことだが、ルーテル学院もすぐそばにあって、バスのアナウンスで済々黌前で男女共同参画センターはあもにいと入るので、名前を聞いたことはあるが、どんなセンターなのかは残念ながらそんなに認知されていないと思う。少しずつ関わりを持つことで、若い人たちにもそんな場所があったんだと知られていくと思うが、男女共同参画という硬い言葉から若い人たちがどんなイメージを持っているのかなと思う。柔らかくすればいいという問題ではないと思うが、男女共同参画の意味や目的を伝えられればいいと思う。（はあ

もにいフェスタで) 堂本暁子さんの講話「災害に強い地域づくり」をたまたま聞かせていただいた。この方は男女共同参画の立ち上げをずっとされてきたが、その時のことを初めて聞いた。私たちの世代でも初めて聞くことがあって、大変おもしろく、こういったことを若い人たちに聞かせたいと思った。男女共同参画という意味をもっと若い世代に伝えていく工夫が必要。それにより足を運びやすいセンターになるのではという気がする。講演会では堂本さんへの質問がたくさん出ていた。講師が実際に東日本大震災での活動に携わられた方だったので、改めて別の震災で活躍された方の話を聞いて、自分たちの震災をもう一度考えるとてもいい企画だったと思う。防災講座がこれだけニーズがあるということで、意識が高まっているということだと思うが、どうしても忘れていってしまうので、申し出があるから行くという形ではなく、これからの活動が重要ではないか。申し出が次年度どれくらいあるのか、これからこちらからもっと発信していくことを考えられているのか。小規模の講座で、集まりやすいと思うので、聞かせていただければ。

**田中:** 次年度は4月から募集を開始するようになっていて、まだ受付が始まっていない。昨年講座をした中で、他のところでも実施したいという話があった。別の集まりで講座を聞いたが、自分たちの地域でも行いたいという声もあり、企業からも、ぜひ次年度計画させてほしいという声があった。発信方法は市政日より、ホームページ、チラシ配布等。チラシを見て申し込まれた方が多かったので、なぜ申し込んだのか理由を聞いたところ、各団体とも防災に取り組みたいとは考えているが、予算をあまり持たないということで、予算のない中で無料で来てくれるなら聞きたいという話だった。今、意見があったように、次年度は申込を待つだけではなく、こういうところに来てほしい、聞いてほしいという団体をピックアップし、積極的に声がけをしていきたい。

**八幡:** ウィメンズカレッジは先週、修了式があり、はあもにいの目玉事業になっていると感じた。今年の受講生は、地震後、何か社会の中、熊本の中でできること、役に立てることを考えたいという意欲の高い方や、それぞれの職場でそれなりのポストについている方が受講していたのが特徴だった。それぞれの立場で足元からできることを身近な問題としてとらえられている方が育っている。こういった方を熊本の財産としてネットワークづくりに活用いただきたいと思った。私のところの学生が卒論で北九州市の男女共同参画センタームーブに関する調査を行って、それぞれの男女共同参画センターには特徴があるということがわかった。ムーブは国際的なニュアンスで活動をしている。はあもにいは、一つひとつの講座の規模は小さいが、そういった参加者をスタッフが一人ひとり大事にし、取り組まれているのが、ここのアットホームな雰囲気なんだろうと感じた。特に学校現場との連携事業では、ムーブは出前講座においても大学生以上を対象としているが、こちらは高校生以下にも視点を広げている。それぞれの持ち味なのかなと思った。北九州市は行政の中に女性活躍推進課が立ち上げられ、そことリンクしたイベントが行われている。ぜひ行政とリンクした事業を展開していったらどうか。

## 要望・意見

---

**広渡：**多彩なプログラムを予定していることを嬉しく思う。今後、計画されている若年層に向けた男女共同参画の啓発は、特に若い人たちは自分たちと無関係の感覚があるかもしれないが、内容的にはとても大事だと思う。大学ではキャリア教育があるが、こういった視点の学習はできない。目の前の就職だけを見据えるのではなく、若い時に自分の人生について考える視点を知るだけでも大事な機会になる。

**中山：**他のセンターと比べても劣っていないと強く感じている。大変だと思うが今後ともよろしく願います。

**石井：**私も堂本さんの講演を聞いて、(災害・復興とネットワークの立ち上げの話など) ということだったのかと初めて知った。そういう方々が、がんばってつかみ取ってきた男女共同参画の現状を、若い人たちに知ってもらいたい。私たちの時代にはウーマンリブというところがあって、ちょっと声高に感じたが、現代はもっとソフトに伝えていけたら関心を持ってもらえるのではと思った。

**宮村：**内容については考えて練られていると感じた。私自身も周知に今後がんばって役に立てればと思った。

**井手：**大学生など若い人たちがあまりはあもにいを知らないという話があった。学生、社会人になりたての人たちがはあもにいを利用するような機会、たとえば企業の合同説明会とかはあもにいであれば会館、貸室を知るきっかけになるのではないかと。新人研修や説明会など企業がもっとはあもにいを利用してくれるような仕組みがあれば、周知しやすくなるのではないかと考えた。

**坂口：**パラレルキャリアにとっても興味を持っている。新しく起業したい人、複数の職種によって成り立つ人、県外から新しく熊本にきた人もいるので交流の場なども必要。ウィメンズカレッジの成功は回数や内容がいいと思うので、対象を広げて、子ども向け、小学生向けに大学の先生が話してもいいのでは。自治体が協力して子ども大学というのも各地で広がっている。シルバー向けでもいい。そういった大きな交流がはあもにいの働き方にもつながっていくのではと思う。学校以外で社会や世界、働き方、男女共同参画を学ぶ場は異世代の交流になると思う。一つひとつ区切りはあるが、それを総合的にできるのがはあもにいだと思う。少人数の区分と大人数の区分とつながりが持てたらいい。就活利用の意見もすごくいいと思う。そういったきっかけで若い方が男女共同参画、働き方について一緒に考えていけたらと思っている。

**那須：**一般向け、女性向けの企画などがあるが、小学生向けにポイントを置いた企画も考えてみてはどうか。1年で解決する問題ではないが、貧困、引きこもり等、生きづらさを抱える女性の自立支援の取り組みは、今の時代だからこそ非常に大切と思う。慈恵病院が取り組んでいる子ども食堂の方が言っていたが、人間らしく生きていく、そういった大人になっていくためには子どもの頃からの経済的な貧困の解決と合わせて、体験の貧困、コミュニケーションの貧困などの解決も必要。そのため、子どもたちを対象に体験を含めた男女共同参画

の企画を期待したい。

**伊藤：**はあもに通信を校区に配布しているが、反応はあるか。

**藤井：**見て足を運んでいただく方はいる。

**伊藤：** 回覧することでみんなが興味を持ってきた。平成 50 年には総人口が 8000 万まで減る。高齢化問題をどう乗り切っていくかと考えると、はあもにいが取り組む企画が非常に重要と強く感じている。はあもにいの周知に協力していきたい。力を合わせていきましょう。

**館長：**思い及ばなかったこともたくさんあったので、今後の取り組みにしっかりと取り入れていきたい。認知度が低いことはずっと問題だった。取り組んできたつもりだが、どういう人に来てほしいのか、知ってほしいのか、踏み込んだところで考え、今後働きかけをしたいと改めて思った。